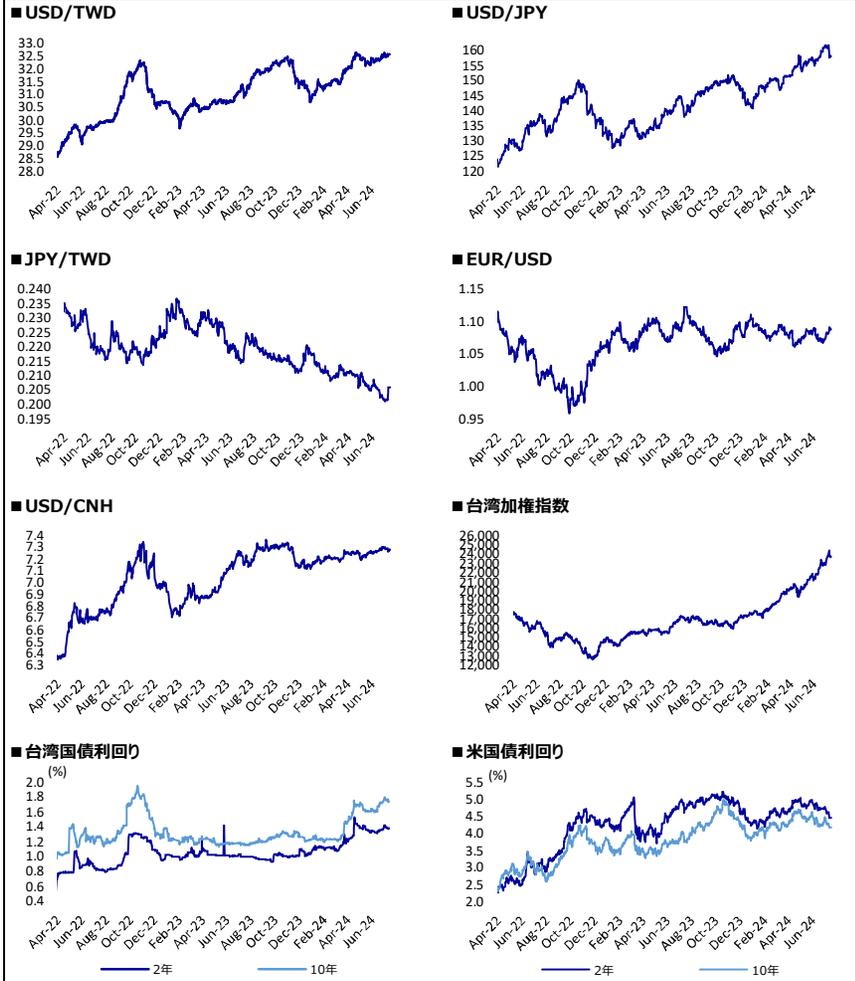


市場動向



先週の市場動向

**■ USD/TWD**  
先週のドル/台湾ドルは上昇。週初7/8は32.460でオープン後、前週末海外時間に発表された米6月雇用統計が軟弱な結果となっていたことを受けて、ドル売りが進み一時32.395まで下落。7/9は、海外投資資金送金が見られる中、台湾ドル売りが進み32.50台半ばまで上昇。7/10は、前日海外時間に実施されたFRBのパウエル議長による議会講演において、利下げに対して積極的な姿勢が見られなかったことで、グローバルにドル高が進む中、一時32.632まで上昇した。7/11は、台湾株が堅調に推移し、史上最高値である24,416.67ポイントを付けると、リスクセンチメントが改善し32.50近辺まで下落。7/12は、米6月CPIが軟弱な結果となったことを受けて米金利が低下していた一方、外国人投資家による台湾株売りや、海外投資資金送金がまとまって見られたことからドル買いが進み、32.50台後半まで上昇。最終的には前週比0.3%ドル高台湾ドル安の32.561で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式売り越し額は732.3億台湾ドル。

**■ USD/JPY**  
先週のドル/円は下落。週初7/8は160.70でオープン後、目立った材料に欠ける中160円台後半で揉み合いの推移。7/9は、海外時間に実施された米FRB議長による議会講演において、利下げについて「いかなるシグナルも送りたい」とのスタンスが示された。9月利下げへの確信が得られなかったことから、ドル買いが進み161円台半ばまで上昇した。7/10は、翌日海外時間に重要指標の発表を控える中、警戒感の高まりからドル買いが進み、一時161.81まで上昇。7/11は、発表された米6月CPIが市場予想を下回り、前月比下落する結果となったことから、米金利が急速に低下。ドル売りが進み、157円台まで下落した。7/12は、財務省による為替介入の思惑も広がる中、ボラティルに推移。海外時間に入り、発表された米7月ミシガン大消費者景況感指数において、期待インフレが前回対比低下していたことを受けて、米金利が再度低下すると、ドル売りが進み一時157.30まで下落した。最終的には前週比2.0%ドル安円高の157.60で先週の取引を終了。

今週の見通し

**■ USD/TWD** 予想レンジ：32.400-32.700  
今週は揉み合いの推移を見込む。米インフレが減速を見せる中、米金利は低下基調が強まっているが、海外投資資金送金や、配当金送金等がまとまって見られる中、売り買い交錯となるであろう。

**■ USD/JPY** 予想レンジ：155.00-159.00  
今週は上値の重い推移を見込む。米金利が急速に低下する中、ドルが売られやすいであろう。

今週の予定

7/15 (MON)	
7/16 (TUE)	米6月輸入物価、米6月小売売上高
7/17 (WED)	米6月新規住宅着工件数、米6月鉱工業生産
7/18 (THU)	日6月貿易収支、ECB、米7月フィラデルフィア連銀製造業景況感指数
7/19 (FRI)	日6月CPI

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客さまご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。